

各種報告書の概要

令和6年度こどもワークショップ

報告書の構成

- 実施目的・実施概要（P1～2）
- 募集型ワークショップのプログラム詳細とこどもたちの意見を記載（P3～11）
- アウトリーチ型ワークショップのプログラム詳細とこどもたちの意見を記載（P12～16）
- 理想の富田林についての意見（P17）
- まとめ（P18～20）
- 巻末資料（P21～23）

実施結果のポイント

一番気になった かるた （関連する権利）	①第24条 健康に生きる権利（21件） ②第12条 意見を表明する権利（18件） ③第28条 教育を受ける権利（15件）
友だちに伝えたいか るた （関連する権利）	①第12条 意見を表明する権利（16件） ②第24条 健康に生きる権利（11件） ③第2条 差別されない権利／第39条 心の傷から回復するためにケアを受ける権利（各10件）
オリジナルかるた	「第12条 意見を表明する権利」に関連すると考えられる内容のかるたが見られた
理想のまち	「みんなが笑顔」「みんなが心でつながっている」「みんなが優しい」「一人も悲しい思いをしている人がいない」「全ての人を取りこぼさない」などのキーワードがあげられた
まとめ	選ばれたかるたや作成したオリジナルかるたの傾向から、こどもたちの関心は「意見を表明する権利」と「健康に生きる権利」が高く、特に心理的な健康へのケアが重視されている傾向が読み取れた。条例制定の際やその後の取組においては、こどもたちの心のケアに十分留意する必要があると考えられる。

多様な学び・生活環境にある子どもへのヒアリング

報告書の構成

- 実施目的・実施概要（P 1～2）
- 各施設・団体のプログラム詳細と子どもたちの意見、考察を記載（P 3～29）
 - ・ フリースクール（P 3～7）
 - ・ 特別支援学校（P 8～16）
 - ・ 日本語教室（P17～26）
 - ・ 児童養護施設（P27～29）
- まとめ（P30～31）

実施結果のポイント

- | | |
|---------|--|
| フリースクール | <ul style="list-style-type: none">● 教育環境を自分で選べることや、自分のペースで学校生活を送れる柔軟性を求めている● 「安心できる場所」として、自分を受け入れてくれる環境を必要としている● 単に意見を聞くだけでなく、それが実際に反映されることを願っている |
| 特別支援学校 | <ul style="list-style-type: none">● 安心できる場所は「友だちがいる」「先生がいる」といった人間関係を重視している● 困った時の相談相手は「信頼できる」「受け入れてくれる」といった日常的な関係性を重視している● 意見を言う環境として、秘密を守ってくれる場所や、じっくり話を聴いてもらえる環境を求めている |
| 日本語教室 | <ul style="list-style-type: none">● 日本語での学習における困難さがあげられ、一人ひとりに合わせたきめ細かいサポートが求められている● 言語の不安を抱える子どもたちが意見を言うには「安心感」が重要な要素となっている● 差別のない社会や多様性を認め合う社会を望む意見があげられた |
| 児童養護施設 | <ul style="list-style-type: none">● 困ったときに助けを求めることや自分の心身を守ることに関するかるたへの共感が見られた● 自分の意見を表明する権利に関心を示し、日常生活での意見尊重の重要性を感じている● 性別や文化的背景による差別に関連するかるたを選び、平等な扱いを求めている |

こども園・保育園・幼稚園のこどもへのヒアリング

報告書の構成

- 実施目的・実施概要・プログラム概要（P 1～3）
- 各園のこどもたちの意見、考察を記載（P 4～16）
 - ・ こども園のこどもたちの意見（P 4～11）
 - ・ 幼稚園のこどもたちの意見（P12～14）
 - ・ 保育園のこどもの意見（P15～16）
- こどもの権利ニュース（P17～20）
- まとめ（P21～23）

実施結果のポイント

- 約500件のこどもの意見を聴くことができ、5歳児のこどもでも大人と同じようにたくさんの意見を持っていることがわかった。
- こどもたちに「うれしい・幸せだと感じる」ときについて尋ねた結果、「遊び」に関する意見が最も多く挙がった。
- こどもたちに「嫌な気持ちになる」ときについて尋ねた結果、「お友達に嫌なことが言われた」や「けん玉がのって、先生に見せようとしたとき、人に落とされた」など「自分のこと」に関する意見が最も多く、嫌なことを言われたり、嫌なことをされたりすることが原因となっていることが分かった。「嫌なことを言ったり・したりすることは、権利の侵害である」こと、「お互いのこどもの権利を大切にする」ことを、こどもたちに伝えていく必要がある。
- こどもたちに「嫌な気持ちになる」ときについて尋ねた結果、2番目に多かったのは「戦争になったこと」や「殴られる、叩かれる」など「安心・安全」に関する意見だった。こどもたちが「安心・安全」に生きる・成長できる環境が求められている。
- こどもたちからは「自分の大切なものが勝手に捨てられたり、ゆっくり食べたいのに早く食べなさいと言われてたり、自分の意見を聞いてくれない」など、「大人が自分の意見を聞いてくれない」と感じることで嫌な気持ちを引き起こすという意見もあった。